

期待と不安を胸に抱きながら、入学したあの日から3度目の桜の季節を迎えました。日々、景色が春の色に染まり、鮮やかになっていくこの佳き日に、私たち113名は純心女子高等学校を卒業します。嬉しいことや悲しいこと、悔しいことなど、多くの時間を仲間とともに過ごした3年間は長いようであつという間でした。

私は純心で過ごす日々の大半を、生徒会役員として過ごしました。1年生では副会長を、2年生では会長を務めさせていただきました。歓迎オリエンテーションや学園祭など、1年を通して皆さんに楽しんでいただけるように、準備や当日の司会進行など様々な仕事をしましたが、楽なことばかりではありませんでした。しかし私は、生徒会として活動している時間がとても幸せでした。そこには仲間や後輩の姿がありました。行事の準備だけでなく学校や先生方とともに、ルールメイキングを行ってきた、素晴らしい先輩方のあとを継ぎ、私も頑張らなければと強く思いました。時にはそれがプレッシャーになることもあり、当日予定通りに進まなかったり、代表挨拶を完璧にこなすことができなかつたりしたこともありましたが、何度失敗しても隣に居続けてくれ、どんなに大変でもついてきてくれるメンバーと活動するなかで、学校は誰か一人が作るものではなく、沢山の人が支えあい、私達全員で作るものだと思うようになりました。常にサポートし続けてくださった先生方、共に活動してきた生徒会のメンバー、そしてともに学校を作り上げてくださった全校生徒の皆さん、本当にありがとうございました。「会長」と何度も皆さんに呼ばれたことは一生の忘れることのできない幸せであり、私の誇りです。

本校は今年、創立90周年を迎えました。この伝統ある学校で過ごせたこと、心より感謝申し上げます。朝の聖歌からはじまり、終礼でのお祈りで1日を締めくくった3年間。そして受け継がれてきたロザリオの祈り。このような日々は、純心でしか味わうことができないものであり、今後も残していかなければならないものだと思います。

この3年間は、様々な方のサポートがなければ過ごすことができませんでした。この場をお借りして感謝の言葉を贈ります。先生方へ。私たちが悩んでいるときには寄り添い、気が緩んでいる時には叱り、うれしい時には共に喜んでくださいました。不安な時に探すのはいつも先生方の姿であり、心の支えとなっていました。先生方のおかげで、今までの自分が知らなかった世界を知ることができ、日々新しい発見できたことはとても楽しい日々でした。理解することが難しく諦めそうになっても、何度も丁寧に教えてくださり、あの時諦めずに取り組んで良かったと心から思います。本当にありがとうございました。同級生へ。朝、教室に入ると「おはよう」と言い合い、昼食は机を合わせてお弁当を食べ、放課後にも沢山話をしました。時にはぶつかることもありましたが、みなさんのおかげで毎日が楽しく、このような日々がずっと続いたらと考えました。体育大会のソーラン節やダンス発表会、放課後に聞こえてくる部活動をしている生徒の声や笑い声、一つ一つが私の大切な思い出です。後輩の皆さんへ。信じてついてきてくださってありがとうございました。これからはあなた方が中心となって純心を作り上げていく番です。「まず孝行、マリア様嫌なことは私がよろこんで」の精神を忘れず、後輩から慕われるような、立派な先輩になってください。人望は最大の武器です。周りを大切にする人のもとには、自然と信頼と仲間が集まります。卒業生一同、応援しています。そして両親へ。私が、なかなか進路が決まらず、将来自分は何をしたいのか分からず悩んでいたときに

は、興味のあることを経験させてくださり、様々な大学のオープンキャンパスに参加させてくださったりと最後まで私に向き合い、支えてくださいました。6年間送り迎えをしてくださったこと、お弁当を作ってくださったこと、大好きなバレエを15年間続けさせてくださったこと、受験の際に不安になると励ましてサポートしてくださったことなど、感謝してもしきれません。私たちを卒業まで見守り、18年間大切に育てて下さり、本当にありがとうございました。

最後になりますが、本日は私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を挙げていただきありがとうございました。また、ご多忙の中ご臨席くださいました来賓の皆様、保護者の皆様に卒業生一同感謝申し上げます。私たちはこれから、それぞれの道へ旅立ちます。私たちのこれまでとこれからを思うとき、私は夜の滑走路を思い浮かべます。暗闇のなかで、離陸するまでの道はライトが導き、離陸の瞬間までは皆同じ場所に立っています。しかし、そこからそれぞれが違う目的地へ飛び立ち、やがて同じ空の上で朝日を迎えます。支えてくださった皆様のライトに導かれて、今日飛び立つ私たちは、これから先どんな困難に出会っても、希望を忘れることなく、自分の道を信じて進んでいきます。これまで私たちを支えてくださったすべての方々に心から感謝するとともに、純心女子高等学校のさらなる発展をお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和8年 2月28日 卒業生代表